

口永良部島のトカラカンアオイ

久保 紘史郎

Asarum tokarense (Aristolochiaceae) of Kuchinoerabujima Island

Koshiro KUBO

はじめに

トカラカンアオイ (*Asarum tokarense*) は初島 (1986) によると鹿児島県の口之島, 中之島, 黒島, 口永良部島に分布しており, この情報が様々な文献に引用されている。しかし, 口之島, 中之島, 黒島については, 当館が行った調査のたびに記録されている (寺田, 1996, 1997, 1999; 森田 2002, 2004, 2006; 大屋, 2011a, 2011b; 大屋・寺田 2012) が, 口永良部島については, 迫 (1978) で報告されて以降, 正式な報告がなされておらず, 標本としては 1949 年と 1976 年に採集されたものが, 鹿児島大学総合研究博物館 (KAG) に収蔵されているだけであった。今回, 1978 年以降としては, 40 年ぶりに生育を確認したので報告する。

調査日程

2018 年 10 月 15 日～16 日

10 月 15 日

14:40 口永良部島着

15:00～17:30 寝待地区で現地調査

10 月 16 日

6:30～9:30 寝待地区で現地調査

10:30 口永良部島発

調査概要

口永良部島の植物相の調査報告としては, 迫 (1978), 鹿児島県立博物館 (1998), 木戸 (2015), 久保 (2018) があるが, トカラカンアオイが記録されたのは, 迫 (1978) だけであった。筆者は 2016 年から 2017 年にかけて 3 回 (計 9 日間) 調査に入

り, 口永良部島の植物相を調査するとともに, トカラカンアオイの過去の採集地情報をもとに調査したが, 発見することはできなかった (久保, 2018)。

2018 年 1 月, 口永良部島在住の後藤利幸氏が, 口永良部島でトカラカンアオイを発見したとの情報がよせられた。筆者は 2018 年 10 月に現地に赴き, 生育地を確認した。

生育地は, 寝待地区にあり, 8 カ所, 14 個体を確認した。現地で観察したトカラカンアオイの中には, 蕾を付けた個体はあったが, 開花個体はなかった。そのため採集した個体を栽培し, 11 月 11 日に開花を確認した (図 3)。



図1 口永良部島地図

生育地の環境

トカラカンアオイは, 崖地に生育していた。周辺地域の植生は, 高木層はスダジイ (優占種), タブノキが, 亜高木層はタブノキ, モクダチバナ, リュウキュウチク (優占種), 低木層はカラコンテリギ (優占種), ヤツデ, 草本層はハナミョウガ, コバノカナワラビ, ヘラシダ, リュウビンタイ, ミヅシダ, スジヒトツバ,

ホウロクイチゴ, ユノミネシダ, ツワブキ, シラタマカズラ, フウトウカズラ, ヘツカリンドウ, ハスノハカズラ, ノシラン, センリョウ, クマタケラン等の生育が見られた。

概観としては, 高木層は, スダジイ (最大胸高直径 80cm) が優占し, タブノキが混成し, 亜高木層にはリュウキュウチクが, 低木層にはカラコンテリギ等が目立ち, 草本層はシマイズセンリョウやハナミョウガ, コバノカナワラビ等が見られた。

筆者は 2016 年に口之島, 2018 年に黒島の自生地も確認しているが, それらの産地と比較すると個体数が少ないのは一目瞭然で, 注意深く探さないと見つけることはできなかった。また, 口之島と黒島では傾斜の緩やかな斜面や平坦地にも多数みられたが, 口永良部島では, ほとんどの個体が, ヒトも獣も容易に近づくことのできない崖地に生育していた。このことが, 40 年にわたって, 口永良部島でトカラカンアオイを確認できなかった理由の一因だと思われる。1 個体だけ平坦地に生育していたが, この場所は崩落した崖のすぐ下にあり, 崖の上にまとまった集団が生育していることから, 元々崖の上に生育していた個体が, 崩落に伴い移動したと推察できた。

トカラカンアオイが生育している他の島には, シカが生息していないが, 口永良部島にはヤクシカが生息している。このことが, 口永良部島で近寄り難い崖地にのみトカラカンアオイが生育していることに, 何らかの影響を与えている可能性がある。

謝辞

えらぶ年寄り組の山口英昌氏, 後藤利幸氏にはトカラカンアオイの産地への案内や情報提供をしていただいた。厚くお礼申し上げます。



図2 生育地のトカラカンアオイ



図3 開花したトカラカンアオイ
(2018年11月11日開花, 2018年11月17日撮影)

引用文献

- 鹿児島県立博物館 (1998) 熊毛の自然, pp172. 鹿児島県立博物館, 鹿児島県
- 木戸伸栄 (2015) 口永良部島の植物. 鹿児島国際大学福祉社会学部論集, 34 (2) : 76-94.
- 久保紘史郎 (2018) 口永良部島の植物. 鹿児島県立博物館研究報告, 37 : 47-65.
- 初島住彦 (1986) 改訂鹿児島県植物目録, pp290. 鹿児島植物同好会, 鹿児島県.
- 森田康夫 (2002) トカラ列島・中之島の植物採集記録. 鹿児島県立博物館研究報告, 21 : 71-80.
- 森田康夫 (2004) トカラ列島・口之島の植物採集記録. 鹿児島県立博物館研究報告, 23 : 55-60.
- 森田康夫 (2006) 鹿児島県三島・黒島の植物採集記録. 鹿児島県立博物館研究報告, 25 : 22-29.
- 大屋哲 (2011a) トカラ列島口之島の植物採集記録. 鹿児島県立博物館研究報告, 30 : 33-36.
- 大屋哲 (2011b) トカラ列島中之島の植物採集記録. 鹿児島県立博物館研究報告, 30 : 29-32.
- 大屋哲・寺田仁志 (2012) 鹿児島県三島・黒島の植物採集記録. 鹿児島県立博物館研究報告, 31 : 1-4.
- 迫静夫 (1978) 口永良部島の植物 (予報). 鹿児島大学農学部演習林報告, 6 : 1-19.
- 寺田仁志 (1996) 鹿児島県・黒島の植生と現存植生. 鹿児島県立博物館研究報告, 15 : 9-36.
- 寺田仁志 (1997) トカラ列島・中之島の植生と現存植生. 鹿児島県立博物館研究報告, 16 : 1-48.
- 寺田仁志 (1999) トカラ列島・口之島の植物相と現存植生. 鹿児島県立博物館研究報告, 18 : 43-78.